

効弾殺虐士戦塔管制

赤風
あかかぜ

*119号

二期阻止
空港を廃港

82.4.22

京大三里塚
闘争委員会

先結
(内線)
6539
2722

4月16日昼すぎ、管制塔戦士原君は自らの生命を断った。彼は、78年3月30日闘争阻止決戦において空港を包囲する数十機の飛行機と同時に、管制塔に突入し、そこに闘争を阻止した。

しかし、国家権力はこの人民の勝利をかぎりなく憎悪した。不当に逮捕した管制塔戦士に付して一日十数時間の取調べを行い、あらゆる肉体的精神的拷問を行い、さらにこの4年間にわたり不当長期拘留を続けてきた。完結非転向の原君は、管制塔統一被管団4名として公判闘争を闘い抜いてきた。一審判決で彼は、四年という不当判決を受け、控訴闘争を闘っている最中であった。

9日、4年の判決をよまわる四年二週間という長期拘留の後に、高倉君津田君と共に保釈されたばかりであった。その日、三里塚現場で百名を越す反村同盟支援に迎えられる、「闘う為に帰ってきた。」と宣言した。しかし、4年の長期拘留は原君の肉体を虫けり、心を切り取っていた。

4月16日の控訴審公判にむかふ新幹線に同乗していた津田君は言った「彼は、列車の中で『日本原・三里塚勝利』とスローガンを言い続けていた。これは最後まで生き闘い続けようとして高藤する姿だったのだ。そして、四年も拘留されながら、原君は死ぬことは決してなかった。」と。

原君は、まさに権力によって虐殺されたのである。原君を殺した権力者どもを決して許すことはできない。

原君の遺志を継ぎ、空港を廃港へ。

4月17日夜、三里塚橋梁の合宿所で通夜が行われ翌18日、野辺送りが行われた。原君の家族と、反村同盟・支援二百名以上が駆けつけて最後の別れをした。そして、成田で暴徒にさらされ三里塚の土にもどった。最後まで生き闘い続けようとした彼の魂は、北総三里塚の地で闘い続ける。

我々は、彼を死に追いやった国家権力への怒りを燃し、そして彼の遺志を継ぎ、攻勢的な闘いで必ずや空港完全廃港に追い込むことを新めて決意する。それこそは、まだ捕われている管制塔戦士の命を奪い還す道であり、闘い半にして倒れた多くの同志達に代える道である。